

Ecosystem Engineering

2 units (selection)

Yoshiyuki Kidoguchi · PROFESSOR / INSTITUTE OF TECHNOLOGY AND SCIENCE, Yasunori Kozuki · PROFESSOR / INSTITUTE OF TECHNOLOGY AND SCIENCE, Akio Kondo · PROFESSOR / INSTITUTE OF TECHNOLOGY AND SCIENCE

Shuichi Hashimoto · PROFESSOR / INSTITUTE OF TECHNOLOGY AND SCIENCE, Shoichiro Fujisawa · PROFESSOR / INSTITUTE OF TECHNOLOGY AND SCIENCE, Masashi Okushima · ASSOCIATE PROFESSOR / INSTITUTE OF TECHNOLOGY AND SCIENCE

Shigeki Matsuo · ASSOCIATE PROFESSOR / INSTITUTE OF TECHNOLOGY AND SCIENCE, Ryoichi Yamanaka · ASSOCIATE PROFESSOR / INSTITUTE OF TECHNOLOGY AND SCIENCE, Takuro Tomita · ASSISTANT PROFESSOR / INSTITUTE OF TECHNOLOGY AND SCIENCE

Katsuya SATO · ASSOCIATE PROFESSOR / INSTITUTE OF TECHNOLOGY AND SCIENCE, Shin-ichi Ito · ASSISTANT PROFESSOR / INSTITUTE OF TECHNOLOGY AND SCIENCE, Yuzuru Nada · ASSOCIATE PROFESSOR / GRADUATE SCHOOL OF ENGINEERING

Target 自然環境と社会環境の調和を目指す工学者に必要、かつ有効な多様な考え方や、技術、つまりエコシステム工学の理念と実際について理解する。

Outline 本講は、エコシステム工学コースの教員が各専門分野における持続的可能な発展を実現する最新の情報、技術について講述する。

Keyword *environmental engineering, ecosystem engineering*

Requirement 特に無し

Notice 特に無し

Goal 1. 技術者が人間社会の発展と自然環境の保全に果たすべき役割と責任を理解している。

Schedule

1. ガイダンス、概要説明、レポート 1
2. うるおいある地域づくりと交通システム、レポート 2
3. 社会的ジレンマと社会的決定、レポート 3
4. エネルギーの高効率利用と大気環境の保全、レポート 4
5. 大気環境問題とクルマ、レポート 5
6. 環境保全のための省エネルギー、レポート 6
7. 障害を持つ人のための福祉工学、レポート 7
8. 沿岸域の環境問題と数値シミュレーション、レポート 8
9. 心のエコを支援するユビキタスシステム、レポート 9
10. 生態系工学による自然環境修復の取組み、レポート 10
11. 生態系工学による自然環境修復の取組み、レポート 11
12. エコシステムと光化学、レポート 12
13. 再生医療と工学との関わりについて、レポート 13
14. 20 世紀の科学者と技術倫理、レポート 14
15. エコシステムと光物理、レポート 15

Evaluation Criteria 到達目標 1 の達成度はレポートの評点により評価し、評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。到達目標 1 をクリアした場合を合格とし、成績は、到達目標 1 の評点の重みを 100% として算出する。

Jabee Criteria 【成績評価】と同一とする。

Textbook 講義時にプリントを配布する。

Reference 環境白書

Contents <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=215668>

Student 他学科、他学部学生も履修可能。受講者数が多い場合には受講を制限する場合もあるので、初回の授業(ガイダンス)には必ず出席すること。

Contact

⇒ SATO (eco705, +81-88-656-2168, katsuyas@eco.tokushima-u.ac.jp) MAIL

Note 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。